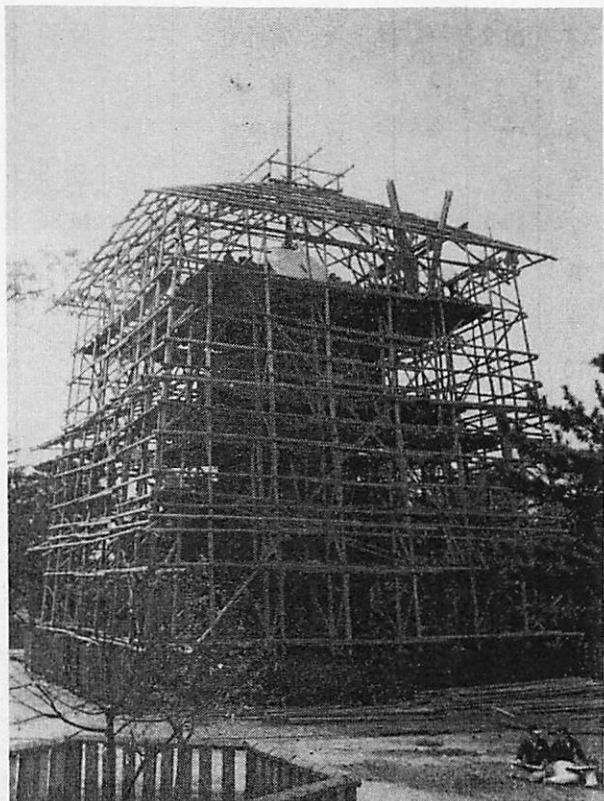

 *
 *
 *
 *
 *
文化財ニュース
 *
 *

No. 23 79. 12. 15

発行 加古川市教育委員会
 編集 加古川市文化財審議委員会
 加古川市加古川町北在家23の1
 TEL (24) 1151



焼失前



焼失直後

県指定文化財

鶴林寺三重塔保存修理に着工

鶴林寺三重塔（県指定重要文化財）は、去る昭和五十一年八月十九日の放火により、外側を残し、内部は殆ど焼失してしまった無残な状態でしたが、このたび県、市、地元負担で二カ年の継続事業として復旧修理することになり、十一月に着工いたしました。

工事入札に際しては、兵庫県文化財審議委員、加藤得二技官が現場説明され、四社の競争入札の結果、加西市、神田組が落札し、工事を進めています。昭和五

十五年八月頃完成の予定ですが、復元の暁には、又もと通り優美な姿で播州路を訪れる人たちの心をうるおして呉れることでしょう。

郷土資料館 毎週水曜日開館

(祝祭日は除く)

10:00 ~ 16:00 無料

場所 中央公民館南隣 TEL 23-3845

市内指定文化財一覧表 (79.12)

<国指定>

番号	区分	種別	件名	数量	指定年月日	所有者	所在地
1	国宝	建	鶴林寺本堂	1棟	S 27.11.22	鶴林寺	加古川町北在家 424
2	"	"	"太子堂	1 "	"	"	"
3	重文	"	"常行堂	1 "	M 40. 5.27	"	"
4	"	"	"鐘樓	1 "	"	"	"
5	"	"	"護摩堂	1 "	"	"	"
6	"	"	"行者堂	1 "	S 5. 5.23	"	"
7	"	絵	絹本着色聖徳太子像	1幅	M 34. 8. 2	"	"
8	"	"	"慈恵大師像	1 "	"	"	"
9	"	"	"弥陀三尊像	1 "	"	"	"
10	"	"	"聖徳太子絵伝	8 "	"	"	"
11	"	彫	銅造聖観音立像	1軀	"	"	"
12	"	"	木造釈迦三尊像	3 "	"	"	"
13	"	"	木造十一面觀音立像	1 "	T 3. 8.25	"	"
14	"	"	木造天蓋	1個	"	"	"
15	"	"	鼈太鼓縁 附 鼈洞・革残闕	2基 1括	S 47. 5.30	"	"
16	"	"	延命子安地蔵菩薩半跏像	1軀	T 7. 4. 8	長楽寺	志方町永室
17	"	工	木造鶴林寺扁額	1面	M 34. 8. 2	鶴林寺	加古川町北在家 424
18	"	"	銅鐘	1口	"	"	"
19	"	"	木造髹漆厨子	1基	T 3. 8.25	"	"
20	"	"	銅鐘	1口	M 34. 8. 2	尾上神社	尾上町長田
21	"	史	西条古墳群 尼塚	3基	S 48. 6.18	加古川市	神野町西条字北山 1700 の51
			行者塚		管理団体 指定	加古川市 大蔵省	八幡町中西条字調子塚 958・959
			人塚		(S 51. 4. 7)	加古川市	神野町西条字北山 1700 の 100・103・111
22	"	絵	板絵著色聖徳太子堂 (太子堂壁画) 附 板絵著色仏 涅槃図 1面 板絵著色 九品来迎図 1面	1面	S 52. 6.11	鶴林寺	加古川町北在家 424

《志方町の指定文化財》



延命子安地蔵菩薩半迦像〈国指定重要文化財〉

志方町永室 長樂寺

長樂寺の本尊で治承2年（1178）の作といわれる。けやき材の一本彫りである。同寺所蔵の古文書には「岩掛け子守地蔵」と書かれている。豊かな頬、半眼のまなざし、その柔軟な相好から受ける感じは、平安朝の彫刻のそれに近いが、肩からひざ、手足に流れる線やや抑揚をもった衣の線、なにげなく開いた五指の自然の美しさなどに、鎌倉初期の特色があらわれている。像高98cm、座高70cm、後背と台座は後世の補作である。

県指定文化財 地徳寛墓地石幢

細工所地徳寛墓地の入口にある。総高150cm、中央龕部の六面に六地蔵を刻む。笠の一部に少々の破損はあるが、全体に完全な形が保たれている。「永享九^{己未}右志為道□□源逆也十二月廿四日」の銘文がある。

(室町前期) 1437年

県指定文化財 円福寺宝篋印塔

高畠（志方町）の円福寺境内にある。総高210cm、台石の四面に格狭間を入れ、軸石には月輪の中に種子を刻む。反花のはりの深さや、直立した隅飾り、全体の調和等に時代の特色をよく發揮している。「康暦元年^{己未}十月十日、一結衆等」の銘がある（南北朝）1379年

「志方の文化財」より



地徳寛墓地石幢▶



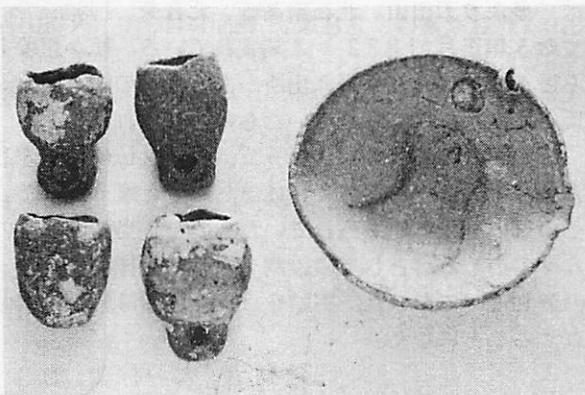
◀円福寺宝篋印塔

寄贈資料 (3月～11月)

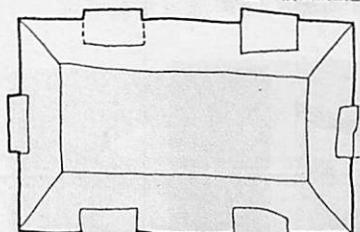
品目

寄贈者

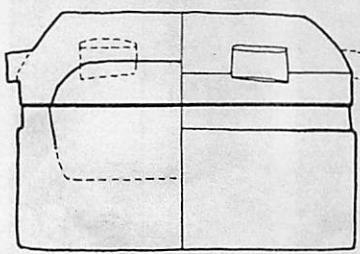
3.19	農具 ユリ マンガ シロカキ板 牛の鞍 寸 竹 アゼキリ ツ チ	1点 1点 1点 1式 2点 1点 1点	神野町西条 籠谷勇事
10.25	土器 タコツボ他 道 標	5点	平岡町 櫻井敏則 加古川町平野 (故)黒田友太郎



稚児ヶ窟古墳出土の石棺（上図・稚児ヶ窟古墳頂上の石棺蓋
下図・投松公会堂の石棺身）

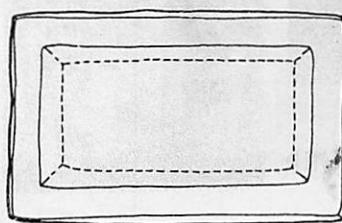


稚児ヶ窟古墳頂上の石棺（蓋）

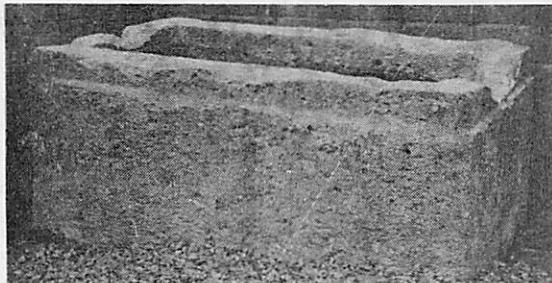
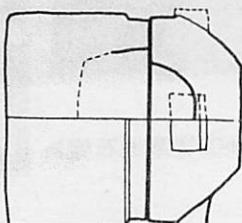


復原図

0 100 200 cm



投松公会堂の石棺（身）



道標（道しるべ）発見!!

去る5月に加古川町平野の黒田友太郎氏の家の前に積み重ねられた石の中から、石柱を発見しこれは道標ではないかと横倒しにして見るとまさしく道標であった。早速黒田さんにこれは昔の「道しるべ」であるから、市の文化課へ寄贈して貰いたいと申し出た。黒田さんは喜んで了解していただいた。この道標の表には「是より刀田山。北在家高砂、北在家。側面には、文政5年正月(1822)と刻まれている。私が想像するところでは現在平野派出所がある西側の山本熊太郎氏の家の角に建てられていたものと思われる。

この家は昔、藤の棚といって、野口念仏に参拝する人が必ず一度立ち寄って、休息していた家であった。その家の庭先に建てられていたもので、当時の多くの人々の道しるべとしての役割を果し、参拝者には唯一の道しるべであった。寄贈をうけた道標は資料館に保存することにした。

発見者 大村俊治

投松公会堂の石棺

志方町投松

投松公会堂の敷地内に家形石棺の身（刳抜式）が置かれている。竜山石を石材に用いたもので、志方町内に存在する石棺の中で最も規模が大きく、また精巧に作られている。最近一部が剥ぎ取られて損壊を受けている。

全長234cm、幅154cm、高さ100cmの直方体に加工した石を、長さ188cm、幅94cm、（深さ不明）に刳り抜き、さらに縁辺部に若干の加工を加えたものである。この縁辺部の加工は幅5cm、深さ16cm程度の規模で外側から四辺を削り取ったものである。

「益氣物語」に、「江戸時代姫路城主榎原氏が泉水に希望し、加古川市平荘町又平新田稚児ヶ窟古墳より持ち出し運搬しようとした」という記載があり、稚児ヶ窟古墳古墳頂丘上に置かれていた竜山石製石棺蓋の実測図と照らし合わせてみた結果、サイズがほぼ一致するところから、同古墳出土の石棺身に間違いないものと考えられる。-上月昭信「古代の志方」1976.より-

無数といつてよい志方町の窯跡

加古川市と志方町の合併に伴い文化財審議委員会では今まで4回現地踏査を行なった。旧志方町教育委員会では、古墳、遺跡、石造遺物、窯跡等について調査実施しておりますが未だ、多くの未知の窯跡があるものと推定されます。又業者から窯跡の分布調査の依頼を受けましたが、広範囲の山林で草木が生え繁り足を踏み入れるのも困難な現状で委員会としては、冬季に踏査を行う計画を立てています。

岩本課長の死を悼む

前文化課長岩本恒美氏は菊の香も高い十月十七日、働き盛りの四十七才を最後に永遠の眠りにつかれた。昭和三十七年八月、文化財審議委員会が設置されてから、文化財関係の担当として活躍し、平荘湖古墳群、天坊山古墳、西条廃寺跡、砂部遺跡、日岡山、西車塚等数多くの古墳、遺跡の整備保存、調査資料の編集等に業績を残された。市内にはその他埋蔵文化財が多数散在しているが、それらの保存、管理のための発掘調査については専門職員不在のため特に神経を使われたことであろう。

同氏が手がけた仕事、今後に残された仕事は、山積してさぞ心残りであったろうが、どうか安らかに眠りにつかれるようお祈りするものである。

文化財審議委員長 大村俊治